


令和元年（2019年）6月25日（火）配付

項 目	ジャガイモシストセンチュウ類のまん延防止について
配付資料	・ 地方新聞紙面利用広報「ジャガイモシストセンチュウ類のまん延防止対策を進めよう！」（6月28日掲載予定）
内容及び報道に当たってのお願い	<p>○ ジャガイモシストセンチュウ類は、馬鈴しょの根に寄生し、生育を阻害することで、生産量の減少をもたらす害虫です。</p> <p>○ この害虫は、抵抗性品種の導入や適正輪作による密度の低減、検診による早期発見、農機具の洗浄などにより、まん延を防ぐことができます。</p> <p>○ そのため、畑を耕作する生産者が細心の注意を払うことはもちろんのこと、畑に入る必要がある農産物の集荷業者や農業機械メーカーにおける取組の要請や、一般市民や観光客へ畑に入らないよう呼び掛けるなど、本害虫への理解の醸成と注意を喚起するため、紙面を活用した広報を行います。（掲載日：6月28日（金）、管内地方新聞紙面2社）</p> <p>○ 観光客が増加する本格的な夏の観光シーズンを控え、広く注意を喚起する必要があることから、積極的な報道をお願いします。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>ジャガイモシストセンチュウについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ジャガイモシストセンチュウは、馬鈴しょ等のナス科植物の根に寄生し、生育を阻害することで生産量の減少をもたらす害虫。 ・ 北海道では昭和47年に後志管内真狩村で最初に確認されて以降、発生範囲が徐々に拡大し、オホーツク管内では昭和52年に初めて確認。 これまでも関係者がそれぞれの立場でまん延防止の取組を進めてきたが、管内においても発生面積は微増傾向。 ・ こうした中、平成27年8月に、国内未発生であった類似害虫のジャガイモシロシストセンチュウが網走市内で確認。 現在、農林水産省による緊急防除の実施などの対策が進められているが、<u>地域ぐるみで、まん延防止に向けた取組を今まで以上に進めていくことが重要。</u> </div>
担 当	<p>オホーツク総合振興局 産業振興部農務課長 矢花 修 直通0152-41-0660 (内線2700番)</p> 



オホーツク

ジャガイモシストセンチュウ類のまん延防止対策を進めよう！

ジャガイモシストセンチュウ類は、ジャガイモの根に寄生する害虫です。食べても害はありませんが、ジャガイモの生育が阻害されて生産量が減少し、農家の経営に悪影響を及ぼします。

本害虫は、主に土の移動によってまん延すると考えられ、近年、発生面積は増加傾向にあります。地域のみなさんが協力して、本害虫のまん延を防止しましょう。

一般の方が気をつけること

- くつ底に付いた「土」がまん延の原因になるため、「畑」には写真撮影、山菜採り等で絶対に中へ入ってはいけません。（「畑」は私有地です）

生産者の方が気をつけること

- トラクターなどの農機具の洗浄を徹底しよう。
- 野良生えは感染源になるため、除去しよう。
- 植物検診により早期発見に努めよう。
- 発生畑の作業順番を調整しよう。
- 抵抗性品種の作付や輪作により密度を上げないようにしよう。

農業機械メーカー、集荷業者等の方が気をつけること

- 生産者のほ場に立ち入るときは、靴を洗浄するか、オーバーシューズを着用しよう。
- 農業機械や集荷コンテナを畑に運び込むときは、洗浄に努めよう。

「畑」では、ジャガイモをはじめとして、私たちの命を育む「食料」が生産されています。地域のみなさんが協力して、私たちの貴重な財産である「畑」を守っていきましょう。

～害虫がまん延するとどうなるの？～

ジャガイモは国の検査に合格した「種イモ」を植え付けて栽培します。本害虫が確認された畑では、種イモを作ることができず、まん延すると種イモを安定的に生産することができなくなり、ジャガイモ生産に甚大な影響を与えることとなります。

【お問い合わせ先】

オホーツク総合振興局産業振興部農務課農産係
住所：網走市北7条西3丁目
TEL：0152-41-0664